



国をつなぎ、人をつなぎ、時をつなぐ「朝鮮通信使」

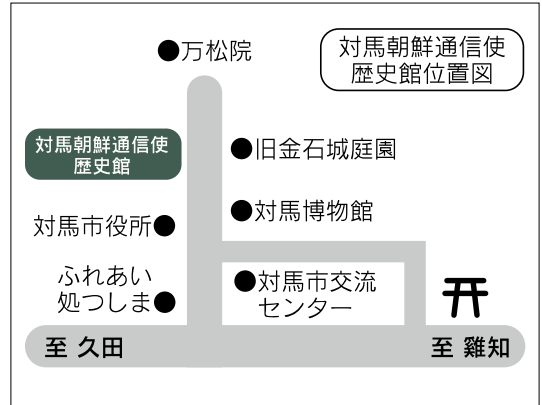
日本と朝鮮国の友好の象徴「朝鮮通信使」。対馬の人々は、戦火によって断絶した両国間の交流を復活させ平和を構築するため、朝鮮通信使の来日に大きな役割を果たしました。そして現在、朝鮮通信使の歴史と世界的重要性を多くの人に知ってもらう取り組みの1つとして「対馬朝鮮通信使歴史館」の整備を10月30日の開館に向けて進めています。

10月30日 開館！「対馬朝鮮通信使歴史館」

朝鮮通信使の「歴史」、その重要性を「未来」に伝える

対馬市は、対馬朝鮮通信使歴史館を厳原市街地の万松院や金城跡などの史跡に囲まれた歴史豊かな地に整備しました。「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ「世界の記憶」に登録されたことを契機に構想されたものです。朝鮮通信使の歴史、朝鮮通信使の来日を成し遂げた対馬藩の役割、雨森芳洲の「誠信外交」など、朝鮮通信使に関するさまざまな情報を紹介します。

現在、朝鮮通信使に特化し、その名を冠した博物館的な施設は国内には存在しないことから「朝鮮通信使といえば対馬」というイメージを市内外に広め、対馬の観光振興と市民活力の醸成を図ることができる歴史館を目指しています。



ここに来れば朝鮮通信使がわかる！

気密性の高い展示ケースで文化財の展示も可能に



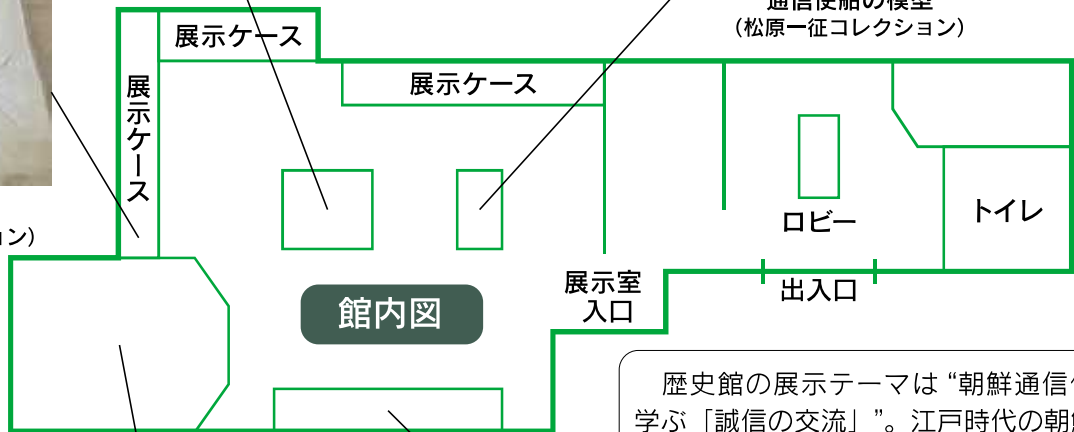
雨森芳洲肖像
(松原一征コレクション)



倭館の模型
(松原一征コレクション)



通信使船の模型
(松原一征コレクション)



朝鮮通信使について映像で学ぶ
ガイドンス室



朝鮮通信使の人形を展示

歴史館の展示テーマは“朝鮮通信使に学ぶ「誠信の交流」”。江戸時代の朝鮮通信使、雨森芳洲の誠信外交について、実物資料や「世界の記憶」登録資料の複製、通信使船や倭館の模型などにより紹介します。

また、一度は記憶から遠ざかった朝鮮通信使の歴史に光を当てた人々の活動や、通信使ゆかりの地についても紹介するなど、現在の出来事にもスポットを当て、来館者が通信使を身近に感じることができるような施設になっています。

「朝鮮通信使」についておさらい

朝鮮通信使は、朝鮮国が日本に派遣した外交使節団で、通信使とは「信義を通じる使節」という意味です。朝鮮通信使の使命は朝鮮国書を日本に届け、日本国書を持ち帰ることであり、両国の国書には平和と友好の精神が満ちあふれていました。朝鮮通信使は室町時代から来日していますが、両国の友好の象徴となった江戸時代12回の朝鮮通信使が歴史的にクローズアップされています。



朝鮮通信使参着帰路行列図（高麗美術館蔵）

対馬の役割は？

豊臣秀吉による二度の朝鮮出兵は、朝鮮国の人々を大量に殺傷し、国土を荒廃させました。その結果、両国の関係は断絶し、朝鮮国との交流が生命線であった対馬は存亡の危機に陥りました。対馬の人々は友好関係を取り戻そうと両国の間を奔走します。そして、朝鮮国から出されるさまざまな難題を解決し、最終的には両国の国書を偽造するなどして、国交回復のための朝鮮通信使を来日させることに成功します。両国の国交回復により窮地を脱した対馬の人々は、釜山の倭館において朝鮮貿易を再開しました。また、朝鮮外交の責任者として朝鮮通信使の派遣要請、来日時に応接や警護などを受け持ちました。

対馬の人々の努力によって、江戸時代から明治初頭までのおよそ260年以上にわたって、日本と朝鮮国は友好的な関係を保ち続けました。隣国間でこのように長期にわたって平和を維持した例は、世界史的に見ても大変珍しいものなのです。

もっと詳しく知りたい方は
江戸時代の朝鮮通信使について
(対馬市ホームページ)



市内に残る朝鮮通信使の足跡

朝鮮通信使が初めて見る日本は対馬でした。そして、対馬に最も長く滞在しました。そのため、市内には朝鮮通信使の足跡が数多く残されています。特に、当時城下町だった厳原市街地は、その名残をとどめています。

西山寺



1719年や1748年に来日した朝鮮通信使の客館として利用された。その後、この場所に外交機関の以酌庵いしやくあんが移転してきたため、別の場所に移ったが、以酌庵廃止後、この場所に戻った。以酌庵初代の景轍玄蘇けいせつげんそ、二代の規白玄方けいぱくげんぽうの像が伝えられている。

金石城跡



宗氏が棧原館に居所を移すまで、朝鮮通信使を供応した場所。対馬易地聘礼時には幕府上使の客館となった。

港から棧原城まで、通信使行列が通るように広々とした道路が整備された。現在の車道の幅と同じ幅だった。

馬場筋通り



知 っ 得 情 報

この石碑の
正体は？



市街地を歩くと、いたる所にこの石碑があります。これは、最後の朝鮮通信使の国書交換が対馬で行われた時に、日朝の関係者がそれぞれ滞在した場所を表した石碑です。国分寺や金石城跡などの史跡の中や、今ではすっかり様変わりした場所など色々なところに設置されています。

歴史に埋もれた朝鮮通信使を後世に伝える

今でこそ朝鮮通信使は、歴史の1ページとして教科書にも掲載されるようになりましたが、40年ほど前まで対馬の中でもその存在を知る人はほとんどいませんでした。歴史に埋もれた朝鮮通信使に光を当て、対馬の活性化や友好の精神を後世に伝え新たな関係づくりに動き出した対馬の人たちがいました。

通信使行列を再現し対馬を活性化したい

昭和55（1980）年3月、厳原町で衣料品店を営んでいた庄野晃三朗さんは、映像作家で朝鮮通信使研究者であった辛基秀さんが制作した映画「江戸時代の朝鮮通信使」を見て、対馬に素晴らしい歴史があることを目の当たりにします。映画に刺激を受けた庄野さんは、毎年夏に行われている厳原港まつりの目玉に行列を再現しようと仲間と声をかけます。すぐに釜山に渡り衣装や旗、太鼓などを用意して、その年の8月に李朝通信使行列（のちの朝鮮通信使行列）としてスタートします。



庄野 晃三朗さん



鮮やかな衣装が街を彩った

華やかな衣装に身を包んだ120人の参加者は街を練り歩き、沿道を大いに沸かせました。その後、武士の衣装を追加するなど、絵巻に沿った衣装へと徐々に移行して、現在へと受け継がれています。

「朝鮮通信使行列振興会」が行う厳原港まつりの朝鮮通信使再現行列には、日韓合わせて300人ほどが参加し、日韓友好の象徴として活動を続けています。

先人が築いた歴史から見える未来

世界に類を見ない友好の歴史を重ねた証である「朝鮮通信使」の舞台となった対馬。まもなく開館する歴史館が拠点となって、通信使の歴史や、国内外に広がる足跡を学ぶことができるようになります。それぞれの時代や場所で生きた人々の姿から浮かぶ「歴史の知恵」を学び、未来に生かしていきましょう。

「誠信の交隣」の精神を世界に広めたい

朝鮮通信使は、江戸までの道のりの中、立ち寄った場所で人々との交流を行っていました。朝鮮通信使が滞在した場所には、書や記録が残されていたり、踊りなどの芸能として人々が伝え残したりしている場所が数多くありました。それらの地域が交流を深めることによって、朝鮮通信使の友好の精神を広め、後世に伝えていこうと平成7年に発足したのが「朝鮮通信使縁地連絡協議会」です。



対馬結成大会（平成7年）

現在、国内18の自治体、日韓両国の約70団体と100人余りの個人が加入し、各地に残る朝鮮通信使資料の研究や、各地で行われる関連行事の支援を行っています。また、平成24年からは日韓共同で朝鮮通信使の関連資料をユネスコの「世界の記憶」へ登録する取り組みをスタート、平成29年に登録されました。



登録を喜ぶ関係者（平成29年）

